

平成28年度

豊田スタジアムを生かした
まちづくり特別委員会

調査研究結果報告書

世界一熱いラグビーを届けよう。

TRY FOR ALL
RUGBY 2019 AICHI・TOYOTA

ラグビーワールドカップ 2019™
地元キャッチフレーズ・ロゴ

平成29年3月

豊田市議会

【目 次】

1	設置の経過	1
2	調査研究事項	2
3	委員会等開催状況と内容	3
4	小委員会等開催状況と内容	4
5	調査研究結果	5
6	提言	9
7	むすびに	11
	【添付資料】海外視察報告書	13

平成29年3月7日

豊田市議会議長
近藤光良様

豊田スタジアムを生かした
まちづくり特別委員会
委員長 桜井秀樹

豊田スタジアムを生かしたまちづくり特別委員会調査研究結果

平成28年度報告書

本委員会は、平成27年5月15日の本会議において設置されて以来、委員会の設置目的を達成するため、調査研究を進めてきた。

以下に平成28年度の活動について、その結果を報告する。

記

1 設置の経過

(1) 平成27年3月2日、2019年(平成31年)に日本で開催されるラグビーワールドカップの開催自治体の一つに豊田市が決定された。

そして、平成27年5月15日の本会議において、大会会場となる豊田スタジアムを生かしたまちづくりについて、市議会で調査研究を行うために本委員会が設置された。

(2) 平成27年5月15日の本会議において、次の通り、11名の委員が選出された。

板垣清志 岩田 淳 岡田耕一 加藤和男 窪谷文克 小島政直
桜井秀樹 塩谷雅樹 都築繁雄 松井正衛 三江弘海

(3) 平成28年5月17日に開催された委員会において、委員長に桜井秀樹、副委員長に加藤和男をそれぞれ互選した。

2 調査研究事項

(1) 設置目的（平成27年度から引き続き）

ラグビーワールドカップ2019™の国内会場の一つである豊田スタジアムを生かし、本市として大会成功、広域スポーツ振興、地域活性化に寄与し、国際都市としての更なる飛躍、発展等を目指し調査・研究を行う。

(2) テーマ・調査研究事項（平成27年度から引き続き）

1 国際都市 豊田市としての顔づくり

世界中、日本中から豊田スタジアムを訪れる観客の移動手段や、市内観光施設等の活用及び、駅周辺施設や歩道の緑陰・休憩施設など、駅周辺から豊田スタジアムへの動線に対する空間のあり方について調査研究を行う。

2 来訪者を迎えるためのおもてなし

市内に訪れる多くの人たちを地域の活性化に結び付けるため、市民意識の高揚をはかり、各種市民団体等と連携し、多くの市民を巻き込んだ来訪者へのおもてなしについて調査研究を行う。

(3) 調査期間

平成28年3月19日 ～ 平成29年2月24日



南から豊田スタジアム、矢作川、市街地を望む

【豊田スタジアム】	完成	2001年7月21日
	メインスタンド	12,500席
	サイドスタンド	14,500席
	バックスタンド	18,000席
	座席数 計	45,000席
	(内 可動席	2,438席はラグビー時には使用しない)

3 委員会等開催状況と内容（平成28年度分）

回	期 日	内 容
	4月20（火） ～4月22日（木）	・行政視察の実施 埼玉県熊谷市 ラグビーワールドカップ2019™に向け たおもてなしのまちづくりについて 岩手県釜石市 釜石鶴住居復興スタジアム（仮）整備に 向けた取組について 岩手県花巻市 北東北の玄関としての観光の取組について
1	平成28年 4月25日（月）	・視察後の意見交換会について ・平成28年度 海外視察調査項目について ・海外視察プロポーザル実施による旅行社の選定について ・平成28年度海外打合せ会の取扱いについて
2	5月17日（火）	・副委員長の辞任・互選について ・委員長の辞任・互選について
3	5月30日（月）	・平成28年度調査研究の進め方とスケジュールについて ・平成28年度海外視察団の取扱いについて
4	6月27日（月）	・ラグビーワールドカップ2019™ 大会成功に向けた取組に ついて ・小委員会からの報告について
5	7月25日（月）	・都心環境計画、中心市街地のにぎわいの創出等について ・小委員会からの報告について
6	8月29日（月）	・新・観光協会の組織について ・小委員会からの報告について ・委員の派遣について
7	11月 4日（金）	・小委員会からの報告について ・今後の委員会の進め方について
8	平成29年 1月23日（月）	・小委員会からの報告について ・調査研究結果報告書(案)について
9	2月 2日（木）	・調査研究結果報告書(案)について
10	2月24日（金）	・調査研究結果報告書(案)について

4 小委員会等開催状況と内容

回	期 日	内 容
1	5月30日(月)	・海外視察プロポーザル・ヒアリング資料について ・ヒアリングの実施方法について
2	6月 1日(水)	・提案書の内容説明及び質疑 ・各委員による採点表作成
3	6月 7日(火)	・プロポーザル・ヒアリングの結果と業者決定について ・今後の流れについて
4	6月27日(月)	・海外視察に関する業者との調整事項について
5	7月25日(月)	・海外視察に関する行程(案)について
6	8月 8日(月)	・海外視察に関する行程(案)について ・視察ノートについて
7	8月29日(月)	・海外視察に関する行程(案)について ・視察先 事前質問表(案)について ・視察報告書担当割(案)について
8	9月 8日(木)	・海外視察に関する注意事項について
9	9月13日(火)	・視察ノート(案)について
10	9月26日(月)	・海外視察についての最終確認事項
	9月28日(水) ～10月7日(金)	・委員6名による海外視察の実施(オーストラリア、ニュージーランドで国際的大規模イベントを通じて、そのまちがどのように変わったのか等を視察)
11	10月14日(金)	・海外視察後の意見交換について ・今後の進め方について(案)
12	11月 4日(金)	・提言に向けた方向性について
13	平成29年 1月10日(火)	・海外視察報告書(案)について

5 調査研究結果

(1) 国内視察調査

埼玉県熊谷市

ラグビーワールドカップ2019™に向けたおもてなしのまちづくりについて

(1) 事業概要

●輸送・交通

①会場及び周辺道路の現状（駅から会場までの交通手段確保と楽しく歩く仕掛け）。

- ・メイン駅から会場までの4キロの移動手段の確保。連結バスの導入検討や楽しく歩くための仕掛けづくり。
- ・会場へのメイン道路は県道であり、大会自体が県との共催という視点で整備強化。

②交通輸送に関する環境整備の方向性（選手、関係者、観客それぞれに対する円滑な輸送サービス）

- ・選手、大会関係者と観客の輸送ルート进行分離。
- ・自家用車の利用者に対してはパーク&ライドを推奨。

●ラグビーワールドカップ2015イングランド大会

- ・行政、議会、商工会議所などで一緒に開催自治体等の取組を視察し、共通の課題等を見つける。約50ページの報告書を作成。

●ファンゾーン

- ・複数設置や街なか滞留の仕掛けづくりなど、効果的な方法を検討。

(2) 評価

- ・駅からスタジアムまでの4キロの道のりを楽しく、店舗を素通りさせずに、歩くための仕掛けづくり。
- ・選手、関係者と観客の輸送ルートを分離する方法。
- ・連結バスの導入について、既に県との協議や実証実験などを実施。
- ・近隣市との連携や既存施設等の大型商業施設を利用したパークアンドライド事業。
- ・交通、ファンゾーン、市民意識の高揚など様々な取組に対しての明確な目標設定。

(3) 意見

- ・熊谷市はラグビーが文化として根付いており、市の意気込み、雰囲気は豊田市とは違うと感じ、市民意識の醸成、市としての取組姿勢がよく見えた。
- ・熊谷駅前のモニュメントなど、ラグビーの街としてのアピール、盛り上がりを感じた。
- ・豊田市ではタグラグビーの普及拡大をめざした支援、また教育委員会との連携を図って行くことが、市民意識の高揚につながると思う。



駅前に設置された
ラグビータウンを
象徴する像

釜石^{うのすまい}鶴住居復興スタジアム(仮)整備に向けた取組について

(1) 事業概要

●(仮)鶴住居復興スタジアム建設

- ・震災復興として、東北地方で開催。開催12都市中、唯一新規にスタジアムを建設。
- ・釜石の奇跡といわれる鶴住居地区の小学校跡地に32億円をかけ、面積9万km²、座席16,000席の鶴住居復興スタジアムを建設する。
- ・復興スタジアムの4つのコンセプト
 1. 世界とつなぐ、
 2. 市民をつなぐ、
 3. 安心をつなぐ、
 4. 未来へつなぐ。
- ・鶴住居地区では高台移転、商業施設集約など、復興事業に取り組む。
- ・スタジアム建設に対して住民への配慮。検討委員会を設置し、パブコメなどを実施しながら丁寧に事業を進めている。
- ・大会終了後のスタジアム活用方針も市民に対する一般開放利用などを検討中。

●大会に向けた取組体制

- ・行政として担当職員の増員や県との連携強化、庁内組織強化を進める。
- ・市民団体として「2019釜石開催支援連絡会」を立ち上げ、市民の立場からも大会成功に向けて取組んでいる。

●開催地決定について

- ・ラグビーの街といわれる中、市内にはまだ仮設住宅なども多く、復興途中での開催立候補に対する様々な市民感情。

(2) 評価

- ・市民団体を組織し、行政だけでなく市全体での取組体制を構築。
- ・県とのより一層の連携強化や情報共有。
- ・キャッチフレーズを使い、市民一体となって盛り上がるための取組。
- ・大会後のスタジアムの維持管理なども含めたスタジアム コンセプトの策定。
- ・大会に向けて市内企業のスポーツチームを巻き込んだ市民啓発などの取組。



JR釜石駅に掲げられた横断幕

(3) 意見

- ・今回、開催12都市の中で、唯一スタジアムを建設する自治体であり、様々な工夫をしている点は、今大会にかける執念を感じた。
- ・市民の中には復興優先すべきという声のある中、開催地に立候補したことは素晴らしい。

北東北の玄関としての観光の取組について

(1) 事業概要

●観光事業

- ・市街地から車で10分程度にある花巻空港、東北自動車道や開通した北海道新幹線などの交通結節点にあり、国内に限らず海外からの観光誘客にも取り組む。
- ・震災後の観光客減少から緩やかに回復基調にある（観光データから）。
- ・観光事業の概要（空港利用促進事業、観光イベント開催事業、広域観光推進事業、観光情報発信事業、観光ルート整備事業、まちぐるみ観光事業、外国人観光誘客促進事業など）
- ・観光団体と連携（花巻観光協会、花巻温泉郷観光推進協会、岩手県観光協会、いわて観光キャンペーン推進協議会）
- ・専門性を生かせるよう元旅行社社員を観光協会専務理事に登用。
- ・その他、今年度開催の国体では県を挙げて取り組む。また、ラグビーワールドカップ2019™では、交通要衝エリアとして取り組む。

(2) 評価

- ・目的に対する市の施策や戦略等が明確。
- ・地域資源の発掘と効果的な情報発信。
- ・補助事業などをターゲットごとに分かりやすく細分化。
- ・観光協会に対する意識、旅行社から協会への人材登用や観光協会の位置づけなどの取組。

(3) 意見

- ・観光において市民意識の高揚を図るための取組は必要だと感じた。
- ・豊田市都心環境計画の中で、2019年の姿が明確になった段階で、研究し、今後の提言に反映していくべき。
- ・観光では、他市と良い広域連携を構築して、2019年を迎えることが必要である。
- ・市、観光協会などが一体となった総合的な取組が必要である。
- ・豊田市においても、来年度以降の観光協会の動きが重要であり、さらにスピード感を持った取組が必要である。
- ・2005年の愛・地球博の際の来訪者の動き、宿泊状況などを調査することも参考になる。



花巻市観光課による説明

(2) 海外視察調査

今年度、委員6名がラグビーワールドカップ開催経験のあるオーストラリア（シドニー）、ニュージーランド（オークランド、ハミルトン）を視察した。

現地では、国際的大規模イベントに対する行政の関わり方や、大会を契機にまちがどう変わったのか、また観光誘客に向けた官民それぞれの取組などについて、話を伺い、加えて実際に街に出て「現地現物」で自らの目で視察をした。

特に、オーストラリア（シドニー）において行った協会関係者との意見交換会では、「スタジアムを満員にすることが成功だ」、「税金を使ってでも成功しなければならない」といった意見が聞かれ、ラグビーワールドカップ開催自治体の一つとして、世界中から注目の的であることを再認識した。

また、オークランドで訪れたファンゾーン跡地では、当時の建物が残され、市民が利用する姿を見ると、レガシーとして残すことも考える必要があると感じた。

さらに、ニュージーランドでは、国家を挙げて観光誘客に努めている。日本においても、訪日外国人4,000万人といった目標の下、国全体での取組が進められている中、本市においても、新年度から新しく動き出す「(仮称)ツーリズムとよた」の動きに大きな期待をするところである。

2019年は単なるラグビーワールドカップの開催だけでなく、豊田市を世界へ発信する大きなチャンスであると考えている。

(海外視察報告書については資料として添付)



オーストラリア最大のANZスタジアム



迫力あるニュージーランドのラグビー



ハミルトン市にあるFMGスタジアム



ニュージーランド最大のEDEN PARKスタジアム

6 提言

本特別委員会の設置目的のもと、平成27年度の調査研究結果・提言をふまえ、2年間の調査研究結果として、以下の通り提言する。

■調査研究事項1 国際都市 豊田市としての顔づくり

① ファンゾーンにおける豊田市らしさを生かした取組

昨年度の特別委員会の提言にも入れた内容だが、今年度国内視察で訪れた埼玉県熊谷市では、ファンゾーン設置に関し、街なかへの滞留やアクセス面での影響などについて、すでに具体的な検討がされていた。豊田市においても、ファンゾーンについては早い時期から、豊田市の強みであるものづくりや観光資源を活用するなど様々な視点で検討すべきである。

また、海外視察で訪れたオークランドでは、ファンゾーンそのものがレガシー（遺産）として残されており、ラグビー文化が高く、ラグビーワールドカップを開催した都市の象徴と感じられた。豊田市においても、実際のファンゾーンの運用という面で制約はあるかもしれないが、レガシーとしてその一部でも残すことを検討すべきではないかと考える。

② 中心市街地エリアの整備促進

今後、市の歳入減が予想される中、大会に少しでも間に合うよう現在取組が進められている都心環境計画において、豊田市駅舎の整備も含め、一步でも早い事業全体の加速化が必要である。

また、中心市街地エリアで多くの方の意見を聞き、平成27年度に本特別委員会で意見を伺ったトイレ整備や観光案内所の設置、公衆無線LANの整備などについても、来訪者の視点に立った環境整備を進めていかなければならない。

③中央公園(豊田スタジアム)まで楽しく歩けるルートの整備

豊田市駅と豊田スタジアムまでの約1.5kmの動線をラグビーワールドカップに向けた特別のルートとして位置づけて、ハード面の整備を進めていく必要がある。それが大会時には楽しく歩いてもらう仕掛けづくりになると同時に、2019年に向けた市民意識の高揚、大会気運の醸成につながり、ひいては大会後のレガシーにもつながっていくと考える。

■調査研究事項2 来訪者を迎えるためのおもてなし

① 官民連携での取組体制の構築

2019年の大会に向けて、今まで以上に市民団体との連携が求められる。取組体制を構築する上で、商工会議所や、商業連合協同組合、とよた下町おかみさんの会などとも連携を密にし、様々な立場での意見を伺い、来訪者をお迎えする取組を一緒になって考えていかなければならない。行政と多くの関係団体をはじめ、市民の皆さんを巻き込んだ取組を行うことで、豊田市全体での盛り上がりにつなげていく必要がある。

また、海外で視察したように、大会機運の醸成や、子どもたちの国際化のためにも、参加国の文化や伝統などに触れるための国際的なプログラムを学校教育や地域と連携して取組むことが必要である。

② 豊田市内の観光資源の有効活用

平成29年度から本格的に動き出す「ツーリズムとよた」では、地域の観光協会や民間諸団体などとの連携・協力・情報共有などを進め、地域資源の発掘、有効活用を進めていかなければならない。

また、全世界への情報発信としてトヨタブランドを活用するなど、豊田市の強みを生かしたシティプロモーションを行うことで、世界に向けた豊田市のおもてなしにつながっていく。



ラグビーワールドカップ 2019™
地元キャッチフレーズ・ロゴ

7 むすびに

この「豊田スタジアムを生かしたまちづくり特別委員会」は、平成27年5月に設置され、約2年に渡って、11名の委員で2019年に開催されるラグビーワールドカップを契機としたまちづくりについて調査研究を行ってきました。

今年度の国内視察では、同じラグビーワールドカップ開催都市で、ラグビー文化が根付いている「熊谷市」、「釜石市」の視察を行い、両市とも開催都市としての意気込みを感じることができました。しかしながら、本市では開催会場である豊田スタジアムの完成度は高いものの、全市を挙げて大会気運をいかに高めるかという課題について、再認識しました。

本特別委員会の2年間の活動の中で、2019年のラグビーワールドカップを開催する国内4市を視察しましたが、本市の取組は計画に対して遅れているわけではないが、他の開催都市と比較してみると、大会成功に向けた機運の醸成など、特にソフト面の取組が物足りないと感じています。それにはハード面の整備を加速することで、市民の目に見える形でラグビーワールドカップがこの豊田市で開催されることをアピールすることも重要だと考えます。

また、平成27年度はイギリス、平成28年度はオーストラリア、ニュージーランドへ海外視察を行いました。いずれの視察においても、現地でヒアリング等をする中で、この大会がいかに世界から注目されているのか、ということを経験委員全員が肌で感じました。

一方で、今年度最初の6月の会議で、議長より「議員として様々な場面で、ラグビーワールドカップが豊田市で開催されることをアピールしてほしい」との言葉に表されるように、議会として・議員として、大会成功に向けて、何ができるのかを考えることも重要であり、議会力が問われているのではないかと感じています。

これで、2年間の調査研究に一区切りつけることができましたが、まだまだ「スタジアムを生かしたまちづくり」に関して、議会として取り組むべきことがあると感じています。大会が開催される2019年まで、残された期間は限られていますが、次年度においても豊田スタジアムを生かしたまちづくりについて、引き続いての調査研究に取り組まれることを期待します。

最後に、この委員会の調査研究のまとめに取り組むにあたり、豊田商工会議所や各種団体の皆様をはじめ多くの方からのご協力をいただいたことに感謝申し上げます。

平成 28 年度
豊田スタジアムを生かしたまちづくり特別委員会
小委員会 海外視察報告書

日 程 平成28年9月28日（水）～10月7日（金）
調査先 オーストラリア（シドニー）、
ニュージーランド（オークランド、ハミルトン）

【目 次】

小委員会 委員名簿	1
行程表	2
現地地図	4
今回の海外視察を通して	5

【視察報告】

■オーストラリア

●シドニー市

ニューサウスウェールズ州政府訪問	6
シドニー市内、ファンゾーン跡地視察	7
シドニー・オリンピック・オーソリティ訪問	8
バランガループロジェクト視察	9
クレア (CLAIR) シドニー事務所訪問	10
ラグビー協会関係者との意見交換会	11

■ニュージーランド

●オークランド市

Eden Park スタジアム～会場周辺状況調査～	12
オークランド市内、ファンゾーン跡地視察	13
ATEED 訪問	14
Eden Park スタジアム ～オペレーションマネージャー訪問～	15
在オークランド日本国総領事館訪問	16
ニュージーランド観光局オークランド事務局訪問	17
ボランティア団体訪問	18

●ハミルトン市

ハミルトン市役所訪問	19
マタマタ視察（観光誘客事業）	20
視察を通じて豊田市に生かせる取組	21

豊田スタジアムを生かしたまちづくり特別委員会

小委員会 委員名簿



委員長
桜井秀樹
(さくらい ひでき)



副委員長
加藤和男
(かとう かずお)



委員
松井正衛
(まつい せいえい)



委員
小島政直
(こじま まさなお)



委員
板垣清志
(いたがき きよし)



委員
岩田 淳
(いわた じゅん)

随行職員

藤野晃浩 (ふじの あきひろ)

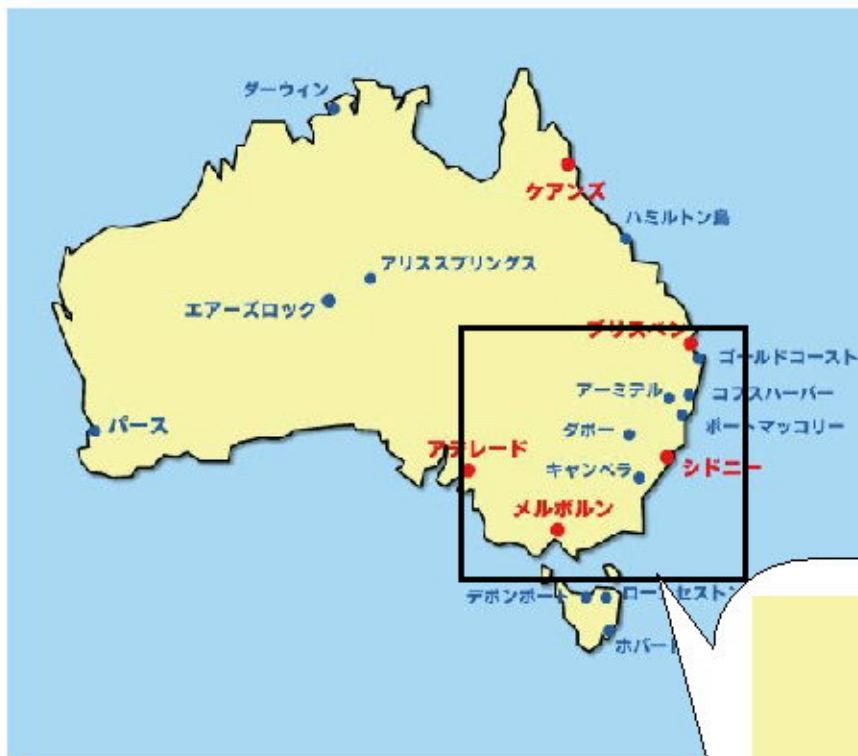
豊田スタジアムを生かしたまちづくり特別委員会 海外視察行程表

	月日	地名	現地時間	視察内容
1	9月 28日 (水)	中部国際 シンガポール着 シンガポール発	10:30 16:20 20:15	空路、オーストラリアへ出発 シンガポールにて乗り継ぎ
2	29日 (木)	シドニー	11:00~12:00 14:00~16:00 17:00	【訪問No.①】ニューサウスウェールズ州政府訪問 【訪問No.②】シドニー市内視察（ファンゾーン・シドニークリケットグラウンド・シドニーフットボールスタジアムなど） ホテル到着
3	30日 (金)	シドニー	9:00 10:00~12:00 14:00~14:45 15:00~16:00 17:00 18:00~20:00	ホテル発 【訪問No.③】オリンピックオーソリティ訪問（マネージメント、開発に関するセミナー） 【訪問No.④】バラングループプロジェクト（レンドリース社）視察 【訪問No.⑤】クレア・シドニー事務所（一般財団法人 自治体国際化協会）訪問 ホテル到着 【訪問No.⑥】ラグビー協会関係者との意見交換会（佐野氏、アンソニー氏）
4	10月 1日 (土)	シドニー → オークランド	07:30 09:55 18:30~21:30 22:00	ホテル発、シドニー空港へ 空路、オークランドへ 【訪問No.⑦】Eden Parkスタジアムで会場周辺状況調査 ホテル到着
5	10月 2日 (日)	オークランド	9:00 9:30~16:30 17:00	ホテル発 【訪問No.⑧】オークランド市内、ファンゾーン跡地視察 ホテル着
6	3日 (月)	オークランド	10:00 10:30~11:30 13:00~14:00 15:00~16:00 17:00	ホテル発 【訪問No.⑨】ATEED訪問 【訪問No.⑩】Eden Parkスタジアムオペレーションマネージャーと面談 【訪問No.⑪】在オークランド総領事館訪問 ホテル着

	月日	地名	現地時間	視察内容
7	10月 4日 (火)	オークランド	9:00 9:30~0:30 13:00~14:30 15:00	ホテル発 【訪問No.⑫】 ニュージーランド観光局オーク ランド事務局 【訪問No.⑬】 2017 ワールドマスターズゲーム ボランティア団体 ホテル着
8	5日 (水)	オークランド→ ハミルトン・ マタマタ	8:30 10:00~11:30 14:00~16:00 18:00	ホテル発、ハミルトン市へ 【訪問No.⑭】 ハミルトン市役所訪問 【訪問No.⑮】 マタマタ視察（観光誘客事業） ホテル到着
9	6日 (木)	オークランド→ シンガポール	10:30 13:10 19:00	ホテル発、オークランド空港へ 空路、中部国際空港へ シンガポール着後、乗り継ぎ
10	7日 (金)	シンガポール発 中部国際着	01:20 09:05	空路、中部国際空港へ

現地地図

オーストラリア



シドニー
 9月28日～9月30日
 視察先：NSW 州政府、クレア・シドニー事務所 等



ニュージーランド



オークランド
 10月1日～4日
 視察先：ニュージーランド観光局、ATEED 等

ハミルトン
 10月5日
 視察先：ハミルトン市役所、マタマタ 等

今回の海外視察を通して

今回、この特別委員会の視察にあたり、委員会の調査研究テーマをもとに、4社からプロポーザル提案をいただき、小委員会委員6名により評価をして、さらに視察先を調整して臨んだ10日間でありました。

視察数でみると多少欲張った感がありますが、委員、随行者も含め無事に大過なく終えることが出来ました。

視察期間中におきましては、改めて「現地現物」で自らの目で見ることの素晴らしさ、視察先担当者と通訳を介してではありませんが、直接お話を伺うことの大切さを肌で感じる事ができました。

今回の視察は「ラグビーワールドカップの開催を契機に、その都市がどう変わったのか」という視点で、2003年に大会を開催したオーストラリア、2011年開催のニュージーランドの両国を視察してまいりました。

いずれの国も、歴史的にラグビーが盛んで、文化として根付いている国であり、単純に比較するのは難しいと思いますが、それでもラグビー発展途上にある我が国として見習うべき点が多々あったと感じております。

2019年のラグビーワールドカップ日本大会の開催都市12都市のうちの一つである本市では、なかなかラグビー文化が根付いていないと言われていますが、世界ではラグビーワールドカップが日本で開催されることはこの上ない名誉であることを、今回の視察の中で関係者とお話しし再認識しました。

特にシドニーで行いました意見交換会では「税金を使ってでも豊田スタジアムを満員にしろ!」といった意見が出され、少々過激かとは思いますがラグビー関係者の熱い想いを感じた次第であります。改めて、この素晴らしいビッグイベントを何が何でも成功に結び付けなければならないと感じております。

最後に、今回の視察に関しまして、旅行会社、現地通訳、視察を快く受け入れてくださいました諸団体の皆様に感謝を申し上げ、議会として調査研究する特別委員会のまとめの一助にしていきます。

豊田スタジアムを生かしたまちづくり特別委員会
委員長 桜井秀樹

[ニューサウスウェールズ州政府訪問]

●視察概要

(1) 組織体制

州政府として、国際的大規模スポーツイベントには次の6部門で対応している。

- ①スポーツ部(企画立案からイベントへの勧誘、今後の施設活用)
- ②スポーツ基盤 (ANZスタジアムの運営)
- ③スポーツ/レクリエーション (8つの施設を受け持ち、地域の子どもたちへ教育する場を提供。これまで1,500万の計画に関わる)
- ④対策/サービス (IT、人事、会計処理を担当)
- ⑤NSWスポーツ研究所 (スポーツ促進や管理を担当。全国大会や五輪を目指すために9つの競技に限定して有力選手を育成)
- ⑥SOP オリンピック管理 (情報提供等)



担当 Dr Phil Hamdorf 氏より説明

(2) アジアカップ2015への取組

この大会では既存施設を活用することで、大会経費を6,600万ドル(内1,600万ドルはスタジアム周辺整備等)とすることができた。また、レガシーに対して情報発信し、成功したイベントと言える。なお、施設整備を行うにしても、レガシーを念頭に行った。

一方、教育面にも力を入れており、学校との関係を構築して数千のプログラムを考案、実施した。それら細かな取組から、コーチや選手の育成、また学校という地域の中心となる施設で実施することで、コミュニティとのつながりの強化が図られた。

試合をする国だけでなく、自国に馴染みのうすい国も含めて、他の国を喜んで迎えることが非常に重要である。その結果、動員数も事前の予想を上回る状況となった。

(3) 州政府としての取組等

- ①政府と企業の関係として、フットボールに関係する団体、第3者の会社のスポンサーの協力
- ②コミュニティの意識向上につながる取組(学校の授業で活用できるプログラムやカリキュラムを考案。異文化交流やスポーツ大使(スポーツ選手ではない)による地元をまとめることに加え、デジタルを活用した若い人によるフェイスブック等を活用。)
- ③地理的に遠い場所への対応(地元・全国・国外へのプロモーションの取組。地元の観光業、航空会社と連携するとともに交通に関する整備を実施)
- ④見返りを求めない行政側の投資

●参考になる内容等

- ①ラグビーを含めたスポーツについて学校との連携を強化し、地元根付く取組を学校教育のプログラムに加えている。
- ②大会期間中や事前キャンプを含めて、学校教育を利用し、地域を挙げてスタジアムで試合をする全てのチームを応援している。
- ③地域、市民とのつながりをより強くするためにスポーツ大使を創設している。



州政府前で

[シドニー市内、ファンゾーン跡地等視察]

●視察概要

(1) ANZスタジアム

「ANZ」とは銀行名であり、ネーミングライツとして、2008年からこの名称が使用されている。

オーストラリア国内におけるスポーツのメイン会場として、5種類のプロスポーツ（ラグビー競技3種やクリケット、サッカー）を開催することができ、そして世界に誇るスタジアムである。あわせて、U2やローリングストーンズのコンサートなど、国際的なエンターテインメントイベントも開催されている。

収容人数 110,000 人を超える史上最大のオリンピック・スタジアムとしてオープンしたが、オリンピック後、約 83,000 人規模に縮小された。

また、この施設の特徴は、行われるスポーツに合わせて、12 時間で楕円形から長方形にその形状が変えられることである。



ANZスタジアム



スタジアム内観

(2) 施設利活用状況

シドニーオリンピック以降、跡地利用を含めたマネジメント条例を作り、主に次の3点の取組を実施している。

- ①会場及び周辺におけるイベントの実施
- ②地域で最大規模の公園運営
- ③居住環境整備による人口増加

この3点を柱に、パーク内では年間 5,000 回のイベントが開催され、1,000 万人が来訪している。パーク内にはスタジアム 2 箇所を含めて 11 箇所のスポーツ施設があり、スポーツイベントをはじめ、コンサートや民間企業による各種展示会等が実施されている。

またANZスタジアムは、開閉式屋根の後付けなど、国際基準に合わせた改修等を計画し、さらなる利用促進を図る予定である。

駐車場は敷地内に 180 台の用意があるが、大規模イベント時には周辺に 3,000 台分を確保し、事前予約制での利用としている。

●参考になる内容等

- ①オリンピックのような大規模イベントが終了しても跡地利用を含めたマネジメント条例を制定し、施設を効果的に利用したまちづくりに取り組んでいる。



スタジアム内にて担当者より説明

[シドニー・オリンピック・オーソリティ訪問]

●視察概要

(1) 歴史

シドニー・オリンピックパーク・オーソリティは、オリンピックパークを管理運営する機関として、オリンピック後の2001年に法令による委員会として設置された。

施設全体面積640haの内、緑地公園(パークランド)は430ha、オリンピック会場を含む敷地面積は190haあり、その維持管理を行っている。

1930年代は、採石場・と殺場・軍施設として利用され、1960年代中頃には化学工場など工業用、ゴミ処理場として利用されていた。入植開始後200年となる1988年には、オリンピックのシドニー開催が決定され、会場として州政府が全体の土地を取得し、水質調査・汚染処理など1億5,700万ドルをかけて全体をクリーニングし、埋め立てと造成を行う。



組織の歴史やオリンピックについて説明を聞く

(2) 環境への配慮

雨水や工場排水はリサイクルされ、飲料水以外は100%リサイクル水がエリアの各住居や商業施設に配水されている。エネルギーでは太陽光ソーラータワーが19基設置されており、周辺施設や街路灯に利用されている。ニューウィントンの選手村の屋根にはソーラーパネルが設置され、大会終了後には建物改修がされ、個人住宅として販売された。

また、オリンピック会場駅の屋根は、透明なグラスファイバーが使用されており、少ない照明でも明るさが維持されているなど、全体的に環境を意識した管理運営がされている。

(3) 今後の方向性

2009年には、2030年までの開発マスタープランを策定し、5年毎に見直しを実施されている。プランでは商業施設ゾーン、高層住宅開発ゾーン、公園・緑地ゾーンが設定されており、このエリアでの将来人口5万人を想定し、土地利用計画がプロデュースされている。土地は州政府所有であり、民間による開発はリースにより委託される。

A NZスタジアムの年間来訪者は現在1,000万人である。冬はラグビー、夏はクリケットの大会が開催されており、入場券を見せれば無料で公共交通を利用でき、駐車場不足にも対応している。これらの取組により、今後も積極的に大規模スポーツ大会やイベントを開催し、国内のみならず多くの外国人来訪者を受け入れていく予定である。

●参考になる内容等

- ①2000年に行われたオリンピックを一過性のものとして終わらせるのではなく、環境への配慮や人口増加を意識した開発マスタープランを策定している。
- ②事業者との協力により、公共交通への誘導を進めていると同時に、駐車場不足にも対応している。

[バラングループプロジェクト視察]

●視察概要

(1) 開発状況等

「バラングループ」とは、大陸の先住民とこの大陸に進出したパイオニアの仲立ちをした「先住民の長老の名前」をとり、地区名としている。

オーストラリア不動産開発大手のレンドリース社は、政府が所有するこの地にオフィスビル、マンション等を建設し、多額の投資の流れを作り出し、人口増加、雇用促進、ツーリズム等に寄与している。

特に雇用の面では、127フロアーにテナントを集積し、約23,000人が就労している。

その他、フェリーターミナルを2箇所建設中である。その特徴として、ターミナルと主要駅を結ぶ地下道を建設することで雨に濡れない構造とし、より利便性の向上を図る。

(2) 環境面への配慮



特徴的な外観のタワーを中心に開発が進む

①140 家庭の約1年分の電気使用料に相当するソーラーパネル64㎡を設置し、電力コスト全てをまかなっている。

②南半球最大の雨水リサイクル処理施設を設置し、リサイクル水を使用している。

③ハーバーブリッジと比較し、「鉄」の利用を1/2にとどめ、コンクリートを再利用し最小限にとどめている。

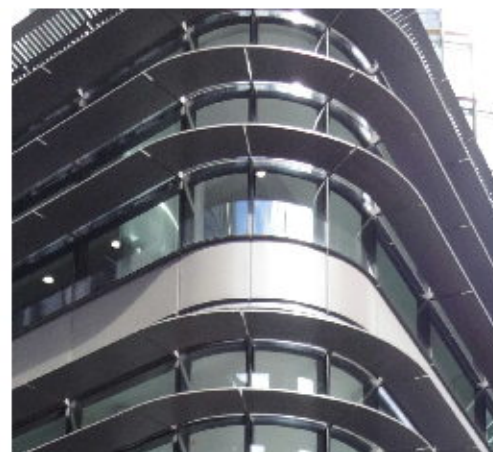
④労働者の自転車利用を促進するため、シャワー室を設置した駐輪場を整備している。

●参考になる内容等

①環境への配慮として、建設中のオフィスビルを含め、エレベーターをガラス張りにし、自然の彩光を取り入れている。

②室内温度を調整する為、全てのガラス窓の窓枠に「日よけサッシ」を取り付けており、温度上昇にも対応している。

③環境への配慮を最大限に考えた手法を取り入れ建設されている。オフィス等を訪れる方や仕事をする方にも環境への配慮が必要なことを認識させる空間を作っており、今の時代、このようなメッセージを打ち出すことは重要である。



ビルのガラス窓に付けられた
日よけサッシ

〔クレア(CLAIR)・シドニー事務所訪問〕

●視察概要

(1) 組織概要

東京に本部、各県・政令市に支部を、そして海外7都市に事務所を設置し、日本国内における地域の国際化を支援、推進するために設けられた地方自治体の共同組織である。

その中でも、シドニー事務所はオーストラリアやニュージーランドの地方自治制度や各種政策等の最新情報を中心に分野別にまとめ、各都道府県、市町村をはじめとする各関係団体に情報提供している。

(2) 説明概要

- ①人口構造の特徴として約3割が外国生まれ、人口増加率1.4%のうち約6割は移民。
- ②オーストラリア経済は好調で、1980年代から年プラス3%成長（失業率は5.5%~5.7%）
- ③地下資源が豊富なことから、輸出の約80%は資源が占める。産業構造としてはサービス業が7割で中心となっているが、鉱業が拡大している。
- ④オーストラリアの旅行は家族が主であり、期間も長いことから、それを意識したツアー内容が効果的である。
- ⑤タスマニアで開催した試合では、開催国には馴染みのない国同士の試合でも多くの観客が集まった。その背景にはグッズの無償配布が影響していると考えられる。

(3) 本市の課題

行政と地域及び関係機関・団体が連携・協力して、どのように海外チーム及び観光客をおもてなししていくのか、十分に検討しておく必要がある。

また、大会まで残り3年という状況で、現時点では協会などからの情報が少ないため、様々な状況を想定し、すぐにでも準備できる体制をとっておくことが求められる。また、国際的なシティプロモーションが求められており、知名度のある豊田(TOYOTA)ブランドを活用することが効果的である。



オーストラリアの概要などの説明を受ける



クレア・シドニー事務所長 上坊氏

●参考になる内容等

- ①家族向けを始め、様々な客層に向けた誘客促進のために多くのパッケージツアーを用意している。
- ②海外来訪者への案内は英語表記を充実させている。
- ③旅行会社向けにはインターネットを活用した売込みを行っている。
- ④入場者増に向けて無償グッズなどを配布している。
- ⑤海外からの来訪者には、円滑な滞在のため通訳電話サービスを実施している。

[ラグビー協会関係者との意見交換会]

●視察概要

(1) 意見交換会趣旨

大会を契機として、現地がどのように変わったのか、2019年に日本で開催されるラグビーワールドカップにあたって、世界から見た視点で意見交換を行う。

(2) 意見交換会出席者プロフィール



《佐野広政氏》

- ・早稲田大学ラグビー部所属、日本ラグビーフットボール協会名誉会長の森喜朗氏の後輩で、長きに渡り親交がある。
- ・日本ラグビーフットボール協会、関東ラグビーフットボール協会等に非常に強いパイプがある。



《アンソニー氏》

- ・シドニーの名門ラグビークラブ「ランドウィック」に所属。国費外国人留学生として九州大学へ留学し、その後、九州電力ラグビー部所属。

(3) 意見交換会を通じたアドバイス

①開催都市としての責務

- ・目標動員数の明確化の必要性（例：豊田スタジアムを満員にすることを目標に。）
- ・豊田市（TOYOTA）ブランドを有効に活用すれば成功に繋がる
- ・「税金」を投入してでも成功させるべきである。

②具体的な取組

- ・豊田市は世界でも産業面（TOYOTAブランド）で知名度は抜群であり、世界中が開催都市として期待していることを念頭に置かなければならない。
- ・大会開催地としての意識高揚を図る（価値観を伝え、開催地に自覚を持たせる。市民意識の高揚）
- ・海外向け（英語版）の観光資料、分野別資料を作成し、マーケティング調査の実施
- ・海外トラベル業者との連携（現地サポーター、情報交換、豊田市のできるおもてなし）
- ・ファンゾーンなどでの地域独自の取組（企画・立案・PDCA）
- ・国内・海外向けへの観光・ラグビーワールドカップのコラボの啓発・情報発信（SNSやHPなど）

～意見交換会を通して～

今回の意見交換では大会成功に向けて、開催地としての責任・意識付けが不足している事を再認識させられた。今後は大会成功の為に何をしていくのかを、組織で、期限を決めて実行して行く事が重要である。また、他都市・ラグビー協会との情報共有、そして愛知県との連携をより進め、姉妹都市などグローバルな視点で成功に向けて取り組まなければならない。



佐野氏、アンソニー氏を囲んで

[Eden Parkスタジアム～会場周辺状況調査～]

●視察概要

(1) 試合内容

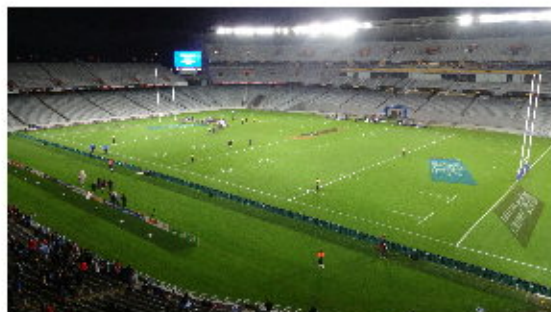
- ①当日の入場者約5,000人(収容人数50,000人)

(2) 交通機関

- ①スタジアムから駅までは徒歩10分圏内
②スタジアムの最寄駅まで、市内中心部の駅から約10分で移動が可能
③施設内駐車場は300台しかなく、観客の多くは公共交通機関を活用している。

(3) 試合運営

- ①当日は代表戦や国内チームの優勝争いといった試合ではないため、予想以上に観客が少なく、また、すでに試合が開始されていたが、試合後も含め混乱は少ない様子が見えた。



Eden Park 内での試合風景



ロゴ入りポロシャツを着用



試合終了後の駅前の交通状況(左奥がスタジアム。会場から出るタクシー等の列が目立つ)

●参考になる内容等

- ①Eden Park スタジアム内では、飲食・売店エリアの前に、飲食しながら観戦できるフリースペース(席・机あり)が用意されており、多くの観客が利用していた。

- ②ラグビーワールドカップともなれば、大会時には多くの観客に対応しなければならないため、売店、販売コーナーを充実させ、スピーディーな飲食の提供が求められる。そのため、スタジアムが満員となることを前提に運営会社に委託したり、2019年までに多くの試合・イベント等で販売運営のノウハウを蓄積したりしていくことが必要である。

- ③当日は豊田市のホストシティロゴ入りポロシャツを着用し観戦した。通訳に聞くと、こういったロゴ入りグッズなどは、現地では非常に興味を持たれるとのことであった。



飲食しながら観戦できるフリースペース

〔オークランド市内、ファンゾーン跡地視察〕

●視察概要

(1) ラグビーの普及

オールブラックスなどの一流プレーヤーを始め、多くのラグビーチームが学校や病院に慰問するなど、ラグビーの普及に努力している姿は、素晴らしい取組であり、こういった社会貢献活動は仕事の1つとして取り組まれている。

(2) ファンゾーン概要

港地区の一区画には2棟のファンゾーンの姿が見られ、現在でも当時の雰囲気を感じることができる。当時、施設内には大型スクリーンが2台設置され、公園施設からも観戦可能で、2万人ものファンが集まったということであった。

ここでは飲食、アルコールも提供され、2棟のうちの1つはファミリー専用として利用されていた。

この地域では「地域が選手を迎え入れること」を心がけ、街中にラグビーワールドカップの「旗」を掲げたり、サポーターとして相手チームや合宿開催チームへのおもてなしを行ったり、各方面への配慮も怠らなかった。それに対して、選手側は試合が無い時には、地元の集客施設などに出かけ、人々との交流イベントなどに参加した。

また、歩道や路面などいたる所には、ファンゾーンへの経路を示す案内表示等が設置され、わかり易い誘導が行われた。



矢印で示した2棟が当時のファンゾーン



現在の建物内部の様子

(3) その他の施設

ノースハーバー地域では、ラグビーワールドカップ時に日本選手が宿泊した施設を、大会後にリフォームし、分譲住宅として販売し、完売とのことである。

●参考になる内容等

- ①現在、ファンゾーン跡地は各種イベントや展示会などに利用されていたり、港に着岸する船の関連業務などでも利用されたりしている。
- ②視察を実施した際には、市民らが野外で卓球、施設内ではバドミントンを楽しむなど、市民の憩いの場所としても利用されており、大会のレガシーを継承したまちづくりに活かされている。



入口は車の出入もあり、タクシーが列をなしていた

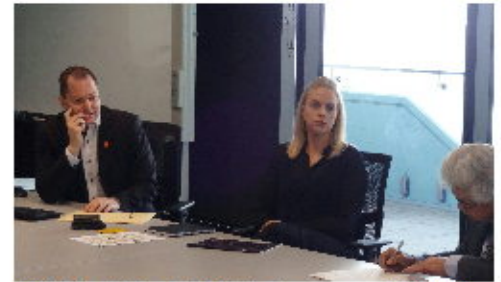
[ATEED訪問]

●視察概要

(1) 組織概要

『ATEED』とは、『AUCKLAND TOURISM, EVENTS and ECONOMIC DEVELOPMENT』の略で、市が管理する機関の一つであり、オークランドエリアの経済発展を振興する役割を担っている。ラグビーワールドカップ 2011 大会を踏まえ、2007 年より準備し、翌年には政府とラグビー協会が特別委員会を設置し、1 試合でも多くオークランドで試合を行うために様々な取組を進めた。

2011 年の地震の影響もあったが、結果、48 試合中 15 試合がオークランド（イーデンパークスタジアム 11 試合、ノースハーバースタジアム 4 試合）で開催された。



2011 年の大会を知る Jason Hill 氏より説明を受ける

(2) ラグビーワールドカップ 2011 大会

大会全体では世界から 20 チームが参加し、内 13 チームがオークランドに滞在。外国からの来訪者が 114,000 人、海外メディアは 2,000 社が来訪、経済効果は 6 週間で 5 億 1,200 万ドルと試算された。

ATEED の取組では、メイン駅からスタジアムまでの約 4.5 km を、バスによる無料輸送の実施や、徒歩で会場に向かう観客のためのウォーキングロードの整備、加えて無料休憩所を 9 か所設置、カフェや音楽、イベントを実施し、歩く人たちを盛り上げていた。

また、ファンゾーンを市内の 4 ヶ所に設置し、参加 13 チームに対する歓迎式典の開催や、学校との連携で各チームの言語や文化の紹介を授業に取り込んだ。結果、家族への波及に繋がり、多くの市民参加を得る成果を挙げた。中心にあるファンゾーンは、土地を港湾局から購入し、隣接地にイベントセンターを設置し、97,000 人を迎えている。

(3) 国際都市・豊田市に向けたアドバイス

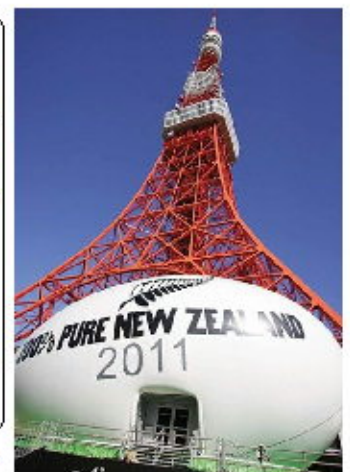
ラグビーワールドカップを「国際的なビッグイベント」と捉え、「市民が知らなかったことを知り、新しい経験を積める」チャンスであることを伝えて行く事が成功に繋がる。

そして、豊田市が多くの外国人来訪者をお迎えするには、英語版カタログやポスター作製のほか、IT S 技術や環境政策を打ち出していくことが効果的である。そしてそれらを契機に、国際都市・豊田市をアピールできれば、持続可能な都市基盤を築くことができる。

●参考になる内容等

- ① ATEED のレガシーの 1 つとして、大会を通じて 5 億ドル以上という大きな経済効果をもたらし、さらには多くの海外メディアを通じた世界への発信等により、活発で魅力的な街づくりに繋がっている。そして大会の経験や結果が、生涯スポーツの国際大会「2017 ワールドマスターゲーム」の招致成功に繋がった。
- ② 海外誘客について、観光局と連携し、日本やイギリス、フランスなど、世界 7 か国でラグビーボール型の 300 人収容できるロゴ入り大型モニュメントを使い、全世界に向けて PR を行った。

大型モニュメントは東京タワー前に登場⇒



[Eden Parkスタジアム ～オペレーションマネージャー訪問～]

●視察概要

(1) スタジアム概要

ニュージーランドで最大のスポーツスタジアム。100年以上の歴史をもち、オークランドのクリケットとラグビーのホームグラウンドで、約50,000人の観客を収容できる。2011年のラグビーワールドカップなど、数々の国際試合が行われている。

(2) Eden Parkスタジアムの取組

- ①観客・来賓などに対して、サブグラウンドを活用し、6,000人が収容できるテントを設置し、有料ではあるが飲食提供を行い、おもてなしを行った。
- ②世界中から来訪者があることから、セキュリティについても配慮し、警察との連携をより一層強化して取り組んだ。
- ③公共交通に関する戦略として、会場からファンゾーンまでの整備・内容を充実させ、非常に好評であった。
- ④有事の際の非常電源の確保やLEDライトを照明に活用するなど、設備面での充実も進めた。

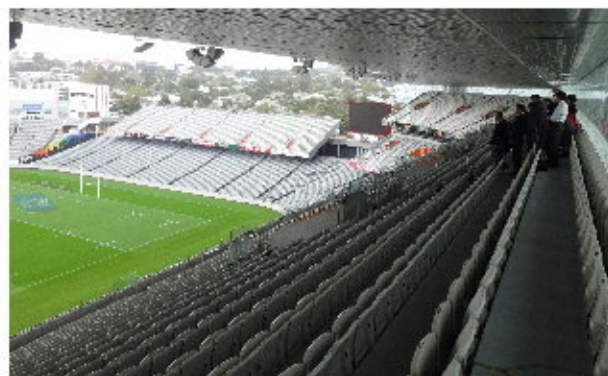
(3) スタジアム設備についてのアドバイス

豊田スタジアムは他市に比べても素晴らしい会場だが、ラグビーワールドカップの会場ともなれば、非常時の対応における人の手配や設備面での様々な課題等が発生してくることが予想される。他市の開催地と連携を密にして情報交換を行うべきである。特に、ラグビーワールドカップなどの国際大会開催経験のある海外のスタジアムや自治体などの情報を収集する必要がある。

また、テロ対策、犯罪対策などに対して、警察機関との連携も密にし、無事に大会を終えることが、一つの成功であり、豊田市が世界の信頼を勝ち取ることにつながる。

●参考になる内容等

- ①技術者を含めた多くのスタッフの労務管理に配慮している。
- ②非常電源などの有事の際の設備を整備している。
- ③スペースを活用し飲食エリアの設置など、おもてなしのために取り組んでいる。



Eden Park スタジアムの取組や設備などについて説明を聞く

[在オークランド日本国総領事館訪問]

●視察概要

(1) ニュージーランドと日本の2国間関係等

- ①日本国総領事館の主な役割は「ニュージーランド国内の約18,000人の在留日本人（オークランド市内は約9,000人）を守ること」「日本企業を支援すること（日本の資本が入った企業は150社あり、そのうち日本商工会関連企業は40社）」「日本の広報、日本文化、人の交流を促進すること」の3点である。
- ②ニュージーランド国の姉妹都市は21都市に及び、オークランド市は福岡市を含め5都市と姉妹都市となっている。福岡市とは今年で30周年になる。
- ③30年前よりニュージーランドの青年を日本に派遣し、学校で英語を教える「JETプログラム」を実施している。青年が帰国した際も様々な角度からアドバイスをしている。

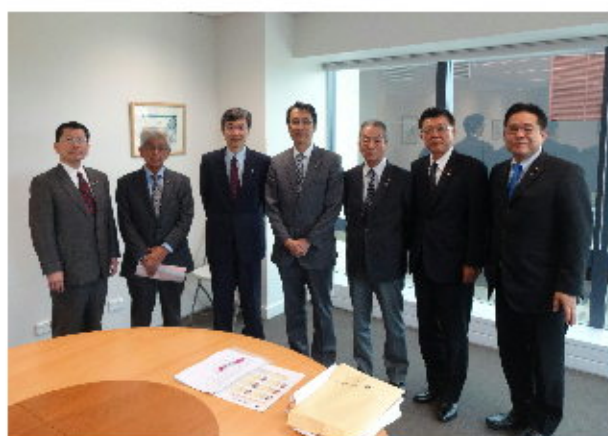
(2) ニュージーランドから見る日本

ニュージーランドと日本とではラグビーに対するシステム、考え方が根本的に異なるため、ニュージーランドのシステムを取り入れようとしても非常に難しい。ラグビー文化の無い豊田市では、様々な人たちが参加できるよう、この大会を国際的なビッグイベント（お祭り）と捉え運営することが肝要である。

また、多文化共生社会を目指す取組をしていく中で、世界中から来訪する各国の人々との交流、おもてなしの心が促進できる。

(3) 総領事館として日本に望むこと

- ①総領事館として、2019ラグビーワールドカップ大会が、日本で開催されることをPRしていきたいが、ポスターやピンバッジなどの広報関連グッズを充実させることが重要である。
- ②オークランド市を含め、ニュージーランド国内に豊田市をPRすることが必要であるため、総領事館を通し関係を深める必要がある。



ご説明をいただいた横山総領事

●参考になる内容等

- ①世界への更なる情報発信に向けて、日系企業、日本国内と関係をもつ姉妹都市、これらのネットワークを活用している。

[ニュージーランド観光局オークランド事務局訪問]

●視察事項

(1) テレビ会議の実施

今回、日本ではまだ少ないテレビ会議による視察を行った。ニュージーランドでは珍しくはないとのことで、会議室には設備が常備されていた。

(2) 観光局の取組

- ①来訪者に対して、滞在期間を長くし、経済的効果を大きくする事を考えながら取り組んでいる。
- ②目的となるメインイベントに加えて、滞在・訪問できる場所を考慮している。
- ③警察や、国（他部門等）などと定期的な情報交換を行い、常に連携を図っている。
- ④イベント開催前と開催後にメディア対応に力を注いでいる。事前にニュージーランドへメディアを招待し、地元の名産品・食・文化などを紹介し、ホスト市の魅力を伝えることで、イベント時のPRに繋がっている。

(3) 来訪者が求めるもの

今回の視察では「私たちの誇り」という言葉や情熱や自信を持つ・市民全体で心をひとつにする、といった意識高揚に関する言葉が多く聞かれたが、観光局でも運営側の「成功させる」という気持ちをととても強く感じた。これは、世界40億人が観戦するラグビーワールドカップに対しての想いが強く現れたものだと思う。

海外の来訪者は開催都市のおもてなしに期待をしており、豊田市でのラグビーワールドカップ開催を単なるイベントとして臨んでは、豊田市のイメージダウンに繋がる。私達はもう一度、ラグビーというスポーツを根本的に理解すると同時に、市の威信をかける想いでこの大会に望む気持ちを持たせるにはどうしたら良いか、という事から考えるべきである。



当日はテレビ会議を実施

●参考になる内容等

- ①試合カードが決まった後、まずはその国の情報を入手する。
- ②海外メディアを事前・事後に招待し、ラグビー協会とも連携を取りながら、地域情報の提供など、メディア戦略に力を注いでいる。それにより世界に向けた情報発信に繋がっている。
- ③観光客へのおもてなしには、その国の文化や伝統を取り入れたイベントを実施している。
- ④開催市の観光スポットを資料化し、提供するなど「+α」の情報提供を行っている。
- ⑤開催国の文化や伝統を取り入れた催しを大会中に行っている。



テレビ会議などにも対応した会議室

[ボランティア団体訪問]

●視察概要

(1) ラグビーワールドカップ2011 ボランティアの取組

①全体概要

全国から5,000人のボランティアを集め、48試合のほかに参加チームの拠点となる地域においても活動。その期間は大会期間の6週間に加え、合計12週間の活動であった。

②ボランティアの活用内容

試合運営や交通案内をはじめ、いくつかは細分化した活動を実施した。チームが拠点としている市でも、団体として独自の活動を実施した。

③活動計画

大会18か月前からインターネットによる募集を開始。募集要項には市のロゴを入れ、有名選手などを親善大使にして、より多くの市民の協力を得られるように取り組んだ。

④市での取組

試合会場だけでなく、市役所でも活動を実施したり、すべてのチームが拠点としている地域へのサポート（ファンゾーン、会場までの案内、イベント、観光案内 など）も行ったりした。

⑤活動拠点

ボランティアセンターを整備し、そこで受付、休憩所、更衣室など活動のための取組を行った。

⑥教育

受入教育を2時間、各分野別の教育を2時間、さらに特異性がある分野においては1時間をかけて活動に関する教育を実施した。

また、市長自らボランティアに登録してもらい、それを写真でPRすることで、さらなる盛り上げを図った。



壁面にラグビーボールが描かれた会議室で説明を聞く

(2) ワールドマスタースゲーム2017に向けた取組

①大会概要

2017年に25,000人が参加し、28種目で、延べ10日間開催される。

②ボランティア募集要項

ラグビーワールドカップ2011と同様にオンラインで募集し、2016年10月から面接開始予定。先回同様の要綱により、多くは以前活動した人により構成される。



担当のMs. Nicole Dun氏

●参考になる内容等

①ボランティア獲得に向けて、著名な方にボランティア大使に就任していただき、PR活動を行っている。

②ボランティアをする人たちへの心構えをしっかりと理解してもらうための取組を行っている。

③2011年のラグビーワールドカップでのボランティア運営等の経験が、2017年のワールドマスタースゲームの運営に活かされている。

[ハミルトン市役所訪問]

●視察概要

(1) 都市概要

ハミルトン市は、人口約16万人でニュージーランド第4の都市である。

2011年のラグビーワールドカップでは、3試合が開催された。市として心掛けたことは、来訪者をどうおもてなしするのか。地域の観光施設などを見ていただき、何を提供するのか。それと、大会の円滑な運営であった。

そのために各方面との連携やコミュニケーション、情報交換が重要と考え、市の代表を、ラグビーワールドカップを管轄するIRB（国際ラグビーボード）の全会議に出席させた。

なお、ラグビーワールドカップ2011大会では、ここハミルトン市で「ニュージーランド対日本」の試合が行われ、83対7という大敗に終わっている。

(2) 大会時の状況

来訪者に向けて気持ちよく過ごせるよう全市民清掃活動や、大会に即した市独自で分かりやすいルール作りなど、市長の強いリーダーシップのもと取組が進められた。

また、スムーズな移動のために、スタジアムまではファントレイル（歩くイベント、歩行者天国等）を実施し、楽しみながら移動してもらうことを心がけた。

そして市と市民が大会の成功と大会ができる喜びを共有して取り組み、結果としてスタジアムでは31,000人（収容人員25,000人、臨時で6,000席を増設）が観戦した。行われた3試合とも満員で、会場外にも観客があふれている状況であった。



ハミルトン市長らを囲んで



FMG スタジアムでの説明



2011年大会のNZ対日本戦83対7の新聞記事

●参考になる内容等

- ①ラグビーワールドカップのために全市民による清掃活動を実施している。
- ②分かりやすい市独自のルールを作っている。
- ③市民意識高揚のため、トロフィーのレプリカを作成し、PRを行っている。
- ④会場まで楽しく歩けるように地元の名産物、試合国の文化や踊りを含めたイベントを開催している。
- ⑤市民向けにプロモーションビデオの作成や、名刺サイズでの試合日程や大会イベントの周知を行っている。

マタマタ視察（観光誘客事業）

●視察概要

（1）映画ロケ地として

- ①オークランドから南へ約170 km。映画ロケ地として有名なマタマタにあるアレキサンダー牧場に、今も映画の世界がそのまま残されている。
- ②映画ロケとして使用した「ホビット」の住居は外観だけをこの地にセットし、住居の内観は市街地にセットし、別での撮影となった。撮影後、自然を残す上で様々困難な状況があったが、政府に要望し、現地に行く道路整備に軍の協力を得ることができた。
- ③ロケ地・セットを残し、この見学ツアーを実施することで、世界中から観光客が訪れ、まちの賑わいの創出につながっている。
- ④そのロケ地案内状況としては、案内スタッフは「夏場：200人」、「冬場：120人」で対応し、多い時で1日3～4回の対応となっている。入館料は2時間で約6千円。1日に約2千人～3千人が来訪する。1年で約45万人が来訪する。
- ⑤現在、豊田市では市内を舞台にした映画を製作する流れがあり、市民及び国民の心に残る映画を期待するところである。そして、それを豊田市の財産とするべく、マタマタのように、映画の感動的シーンの舞台となった背景の一部だけでも残すことは大切な事である。



ホビットの住居として外観をセット



多くの観光客が案内の順番を待つ



映画のワンシーンそのものの建物

●参考になる内容等

- ①映画の成功を機に、政府観光局が「ニュージーランド航空機の機体へのPR」「航空機の案内を利用したPR」「離着陸する空港でのPR」を海外に展開した。
- ②映画の成功により、各種イベントと連携してホビット村を利用したデモンストレーションが行われた。今までは「無名で素通りされていたまち」が、「訪れ、滞在したいまち」に変わった。
- ③映画ロケ地を残すことにより、何もないこの地域に国内・外から多くの観光客が訪れ、まちの賑わいが創出され、国内だけでなく、世界中にこのまちが知られるようになっている。

視察を通じて豊田市に生かせる取組

■ 調査研究テーマ1【国際都市 豊田市としての顔づくり】

- (1) ファンゾーンについて
 - ① 1箇所に限定することではなく駅を中心に東西に分散化する
 - ② アルコールを提供する場の分散化
 - ③ 整備にあたり今後のレガシーとして残すことも検討する
- (2) 駅から会場（豊田スタジアム）までの導線
 - ① 国道419号線横断に対する対応
 - ② トイレ、休憩スペース、飲食関係の整備
 - ③ スタジアムアベニューへの名称変更
- (3) 豊田スタジアム
 - ① 45,000人を迎えるための対応
 - ⇒ 大会までに45,000人収容するイベント開催を経験
 - ② 施設でのケータリング(料理提供)の拡大
 - ③ 非常電源の確保など有事への備え
 - ④ 世界水準を見据えた整備
- (4) 交通整備
 - ① 鉄道会社と協力してチケットを利用した無償バスへの取組
 - ② 豊田市駅舎及び周辺の整備(再開発事業や都心環境計画との連動)

■ 調査研究テーマ2【来訪者を迎えるおもてなし】

- (1) 豊田市から発信するメッセージ
 - ① 全世界に向けた豊田市の魅力を満載したシティプロモーションビデオの作成
 - ② 豊田市の観光戦略と連動した本市 PR
 - ③ TOYOTA ブランド、ネットワークを活用し全世界へ発信
- (2) 地域・学校教育への取組
 - ① 地域からラグビーワールドカップ2019に向けた委員(スポーツ大使)を選出し組織化
 - ② 学校教育にラグビーワールドカップ2019のレガシーや本市における試合開催国に関する応援を追加
 - ③ ボランティア体制の整備
 - ④ 組織体制の早期構築と開催までのロードマップの作成
 - ⑤ 今回のボランティアが将来のイベントや時には災害発生時に生かされる取組
- (3) 行政側の覚悟
 - ① プチイベントの開催
 - ⇒ 豊田スタジアムを満員にすること
 - ② 目標を数字による明確化(スタジアム入場者45,000人！)
 - ③ 予算をかけてでも成功させる、市長が率先しておこなう覚悟を明確に打ち出すこと
 - ④ 行政内を盛り上げる工夫(名刺・ポスター・のぼり 等)